

魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年6月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、6月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>




目次

目次	1
6月のトピックス5選	3
新居浜市で12年ぶりの家族経営協定締結	3
飲食スペースを設けた夜マルシェへの出展による地元食材のPR	3
増産を目指し雑穀の定植始まる	4
新規就農者の定着に向けた「第1回ニューファーマー講座」を開催	4
大野ヶ原でにんにく収穫体験交流会を開催	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
水田におけるスマート農機の実証	6
さといも親芋副芽セル苗の本ぼへの定植	6
白いも栽培に係るリビングマルチを利用した畝間抑草効果の実証試験を開始	7
西条市で認定新規就農者制度に係る事前面談会を実施	7
令和5年度第1回就農初期農業者研修会を開催	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
愛媛マンダリンパイレーツ応援デーで四国中央市のブランド茶「結の霧ひめ」や産地をPR	8
■東予地方局 産地戦略推進室	9
石鎚黒茶生産3団体が、GIの申請について協議を開始	9
■今治支局 地域農業育成室	9
鳥獣被害防止に向けたスマートフェンスを設置	9
新規就農者の定着に向け関係機関が連携	10
梅雨時期のさといも管理作業の確認	10
鳥獣害対策モデル集落で活動方針を検討	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	11
上島町かんきつ基礎講座を開催	11
女性経営参画支援講座を開催	12
■今治支局 産地戦略推進室	12
甘長とうがらし単肥配合の現地実証を開始	12
花木栽培における肥料コスト削減に向けた現地実証の開始	13
■中予地方局 地域農業育成室	13
自動給水機で水田の水管理を省力化	13
なす天敵利用による産地拡大	14
奥松瀬川地区の農村RMO形成を支援	14
就農希望者の就農準備状況や新規就農者の現状等を確認	15
技術力向上を目指し農業女子活動を開始	15
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	16


「媛かぐや」の定植始まる	16
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	16
新規就農者支援に係るトマトの生育調査と指導を実施	16
■中予地方局 産地戦略推進室	17
パクチー新規生産者が夏採り栽培を開始	17
■南予地方局 地域農業育成室	17
いちごの育苗管理研修会を開催	17
高級和菓子用柿の摘果方法を指導	18
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	18
ゆずの有機農業研修会を開催	18
松野町産キウイ花粉の本格出荷に向けて調査を実施	19
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	19
南宇和高校生が農家の園地で縮間伐を実践	19
青年農業者を対象に「やさいバス」の研修会を開催	20
■南予地方局 産地戦略推進室	20
スイーツで三間町産野菜をPR	20
マイナーから抜け出せ！「つるむらさき」を県外市場等でPR	21
■八幡浜支局 地域農業育成室	21
かんきつ園におけるドローンを活用した防除の実証を開始	21
イノシシの突破を防ぐ防護柵設置のコツを周知	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	22
夏秋きゅうり新規栽培者講習会を実施	22
柿「刀根早生」の着色促進技術の普及	23
青年農業者が「長浜未来協議会」設立へ	23
青年農業者と農業高校生との交流会を開催	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	24
高収益作物（ケール）の生産性向上に向けて	24
■八幡浜支局 産地戦略推進室	25
西予市産ネギ等の学校給食への供給の開始	25
高周波音による鳥害軽減対策の検討	25
■農産園芸課 企画調整グループ	25
女性農業者等が働きやすく暮らしやすい地域づくりに向けてリーダー研修会を開催	26
■農産園芸課 高度普及推進グループ	26
「ひめの凜」の中干講習会の開催	26
さといもの生育状況写真をデータベース化	27
野菜生産における環境に優しい「天敵導入技術」について学ぶ	27

6月のトピックス5選

標 題	新居浜市で12年ぶりの家族経営協定締結		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月28日	場所	新居浜市役所	
指導対象	家族経営協定締結農家（1戸）	連携機関	新居浜市	
普及指導内容	<p>○当室では、農業経営に関わる方針決定に家族全員が参画する「家族経営協定」を推進しており、同市内の野菜農家を支援してきた結果、協定を締結することとなった。</p> <p>○協定書調印式では、市農業委員会事務局長及び農林水産課長、地域農業育成室長の立合いのもと実施され、締結農家は「元気に楽しく農業する！」ことを経営目標に掲げ、ワークライフバランスを充実させた経営基盤の確立を家族で改めて意識統一した。</p>			
結果と今後	<p>○締結農家からは、「今後も夫婦で、工夫しながら楽しく農業を続けていきたい」との意気込みがあり、家族が積極的に協力することがうかがえた。</p> <p>○立会人からは、「日本の農業は家族経営が大半を占め、経営と生活が曖昧になりがちなので、協定を結びそれぞれが主体的に参画することで、経営を発展させてほしい」等のエールが送られた。</p> <p>○今後、経営改善計画書の共同申請により認定農業者を目指す予定。</p> <p>○今回の協定締結は同市内で平成23年以来12年ぶりで、締結数は8戸となった。</p>			
				
	<p>左：家族経営協定書に調印 右：立会人との記念写真</p>			



標 題	飲食スペースを設けた夜マルシェへの出展による地元食材のPR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月24日	場所	みなと交流センター（はーばりー）	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ	連携機関	今治地域観光協会、今治市	
普及指導内容	<p>○局予算事業の一環として、地元農産加工品等と連携した販売活動を行っている事業者グループ「しまなみみんなのディッシュ」に対し、月2回今治港で開催されている「せとうちみなとマルシェ」が夏季限定で夜間開催となったことから、これまでの物販中心から飲食ができる出展方法等をグループ員と協議し、新たに飲食スペースを設けた共同販売ブースを出展した。</p>			
結果と今後	<p>○新たに設けた飲食スペースでは、大三島ワイン等が初めてグラスで提供され、ブース内に設けたテーブル席やカウンター14席は常時満席となった。また、同グループ員の連携により新たに商品化された有機かんきつの果汁をワインに混ぜた「しまなみサンテリア」のほか、ワインの提供に合わせイノシシ肉のテリーヌ等も提供された。</p> <p>○同グループは7、8月にも出展を計画しており、しまなみ産食材のPRに取り組む。</p>			
				
	飲食スペースを設けたブース		バラエティ番組の収録	
				
	ニュース番組の取材			



標 題	増産を目指し雑穀の定植始まる		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年6月14日～20日	場所	久万高原町入野、大川他	
指導対象	新規雑穀生産者（4人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○雑穀の栽培により、高齢者の生きがいがいづくりと荒廃農地対策や地域食材の伝承につなげるため、地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」に取り組み、実証展示ほ2か所を設置し、技術普及と新規栽培者の確保による増産を目指すこととしている。</p> <p>○今回、当班実証ほ場で育苗した地とうきび・たかきび・こきびの苗を新規栽培者が定植するにあたり、技術指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今後、生産された雑穀を利用し、道の駅等でのメニュー化に向けた活動を展開する。</p> <p>○また、昨年制作した3本の調理動画のネット配信も行い、雑穀を食材とした郷土料理の知名度向上を図る。</p>			
		<p>左：当班で育苗中の雑穀苗 右：新規栽培者ほ場で定植</p>		



標 題	新規就農者の定着に向けた「第1回ニューファーマー講座」を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月27日	場所	南予地方局	
指導対象	Iターン就農者（7人） 農業委員（5人）	連携機関	宇和島市、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○Iターン就農者等の定着・経営発展を図るため、「第1回ニューファーマー講座」を開催し、傾斜地が多い南予地域における軽労働化に向けた意見交換を実施した。</p> <p>○講座では、宇和島市に移住してかんきつ経営に取り組む西谷諭氏から、就農の動機やこれまでの体験に関する講演を行った後、電動式運搬車と電動草刈機の操作体験や、アシストスーツと空冷服などの着用体験を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○農業委員から技術・経営に関するアドバイスも行われ、参加者からは「Iターン就農者から話を聞くのは初めてで新鮮。自分の経営にも生かしたい」といった声や、農業委員からは「地元のIターン就農者と交流が図れ、良い機会になった」と、活発な講座となったことがうかがえた。</p> <p>○なお、本講座は、年間4回の開催（うちIターン就農者向けは2回）を予定している。</p>			
		<p>左：アシストスーツ等の着用体験 右：農業委員からIターン就農者へのアドバイス</p>		


標 題	大野ヶ原でにんにく収穫体験交流会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年6月19日	場所	西予市立大野ヶ原小学校、生産者ほ場	
指導対象	県立野村高校生徒（13人） 大野ヶ原にんにく組合（5人）	連携機関	（株）祐、西予市	
普及指導内容	<p>○冷涼な気候を活かした高原にんにくの産地化に向け、将来の担い手として期待される野村高校生との交流会を開催した。</p> <p>○交流会では、にんにくへの理解を深めるため、同校生徒が収穫を体験し品質や香りを肌で実感した。また、交流活動では、同校 NNR（野村にんにくレンジャー）が開発した BBQ ソース・みそだれ(にんにく加工品)を試食した。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは、「県内外に広く知ってもらうため、にんにくと大野ヶ原の良いところをタイアップした動画を撮影したい」などの認知度アップと PR 活動につながる意見が出された。</p> <p>○今後も、交流活動を通して PR 活動や加工品の開発及び商品化に取り組むとともに、生産者の栽培意欲向上に向け、植付けから収穫までの機械化一貫体系による省力化を支援する。</p>			
				<p>左：にんにく収穫体験 右：BBQ ソース（高校生考案）の試食</p>



えひめ農業NOW



標 題	水田におけるスマート農機の実証		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月10日～	場所	西条市丹原町	
指導対象	農事組合法人川根集落営農組合	連携機関	西条市、井関農機（株）、NPO 法人きずな	
普及指導内容	<p>○水稲栽培の省力化を目的に、同組合ほ場で「自動抑草ロボット（アイガモロボ）」と「自動給水装置（水田ファーモ）」の現地実証を開始した。</p> <p>○自動抑草ロボットはスクリーンの水流で土を巻き上げ、ほ場全体を濁らせることで太陽光を遮り、雑草の光合成を抑制する。</p> <p>○自動給水装置は、設定水位に合わせて自動で給水ゲートが開閉するため、水位調整が容易となる。また、スマートフォンでの遠隔操作も可能。</p>			
結果と今後	<p>○自動抑草ロボットが水田内で稼働するためには、水深6cm程度を保つ必要があり、自動給水装置とセットで使用すると効果的であった。ただし、田植え時の苗丈が短い場合は水深が確保できないこと、水田に藻が繁殖した場合は藻の下に苗が水没するなどの課題を残した。</p> <p>○引き続き、生育や作業時間等を調査し、西条地区の大規模生産者等への普及を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：スマート農機説明会</p> <p>右：自動抑草ロボット（奥） 自動給水ゲート（手前）</p> </div> </div>				

標 題	さといも親芋副芽セル苗の本ぼへの定植		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月23日	場所	JA えひめ未来西条アグリセンター管理ほ場	
指導対象	JA 営農指導員（4人）	連携機関	JA えひめ未来、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○さといもの栽培面積拡大に伴い、品質維持及び健全な種苗の定期更新による供給体制整備を進めるため、親芋の副芽を利用したセル苗による優良種苗生産技術について、JA 職員にセル苗の本ぼへの定植に係る手順と留意点などについて実演指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○指導の結果、JA 職員はセル苗約400本を20cm間隔で約1aの本ぼに定植するとともに、セル苗定植時の注意点について理解していた。</p> <p>○今後は、JA 職員がかん水や病害虫の発生に注意し、当室と連携しながら種芋生産に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：セル苗を本ぼに定植する JA 職員</p> <p>右：定植後のセル苗</p> </div> </div>				


標 題	白いも栽培に係るリビングマルチを利用した畝間抑草効果の実証試験を開始		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月13日	場所	新居浜市大島	
指導対象	サツマイモ生産者（1人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○大島における白いも栽培では、雑草対策として除草剤を使用しているが、7月以降の効果は限定的で、除草手段は手作業に頼らざるを得ないため、雑草防除の省力化が課題となっている。</p> <p>○そこで、リビングマルチによる抑草効果を検証するため、同一ほ場の畝間にオオムギを播種する区（実証区）と播種しない区（慣行区）を設置した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、栽培期間中の雑草の発生度合いや収量等を調査するとともに、害虫被害の程度やコガネムシ類の発消長を確認し、リビングマルチによる抑草効果と収量及び品質に与える影響を検証する。</p> <p>○また、土壌分析結果に基づく適正施肥量の実証と併せて、白いもの安定生産及び雑草防除の省力化技術の確立を目指す。</p>			
				<p>【リビングマルチ】 畝間にほふく性を有する植物を繁茂させ、後から生えてくる雑草を抑える。</p> <p>左：オオムギの播種作業 右：作業後の実証ほ</p>

標 題	西条市で認定新規就農者制度に係る事前面談会を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月15日	場所	西条市丹原町	
指導対象	就農希望者（2人）	連携機関	西条市農水振興課、JA（周桑、えひめ未来、東予園芸）、日本政策金融公庫	
普及指導内容	<p>○認定新規就農者制度に係る新たな試みとして、新規就農者がより自覚をもって農業経営を行ってもらうため、認定審査日前に「事前面談」を行い、新規就農者が農業経営について自身の言葉で説明し、関係機関からの質問に回答する機会を設けた。</p> <p>○事前面談では、6月に認定審査予定の2人が就農計画について説明した後、関係機関より、「目標労働時間は適正か」「労働力の確保は現実的か」「計画どおりの資金の借入ができるか」等の質問を受け、回答した。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者は事前面談の結果を受け、関係機関からの質問や意見等を反映した「青年等就農計画」を作成し、審査会までに再提出することとしている。</p> <p>○関係機関からは、「初めて顔を合わす本人から自身の農業経営のビジョンを聞くことができてよかった」、申請者からは「緊張したが、今後認定されて、自分が立てた計画を上回る結果を出したい」との声が聞けた。</p>			
				事前面談



標 題	令和5年度第1回就農初期農業者研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月19日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者・就農予定者（36人）	連携機関	日本政策金融公庫、JA（周桑、えひめ未来）新居浜市、西条市、	
普及指導内容	<p>○新規就農者等が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう、基礎知識や基本技術の習得を図るため、第1回「就農就農初期農業者研修会」を開催した。</p> <p>○当室からは「新規就農の手引き～新居浜・西条版～」の活用法について説明した後、日本政策金融公庫からは、資金相談における金融機関の審査等について、JA周桑からは、経営実証ほの取組に関する講話と同実証ほ（研修ほ場）の見学会が行われた。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「座学や現地視察の機会がないのでありがたい」「様々な機関から農業や研修に関する情報提供もあるので今後も参加していきたい」との声が聞けた。</p> <p>○当研修会は1月まで計10回程度開催予定で、研修の場としてだけでなく、参加者の情報交換や、仲間作りの場としても継続して実施していきたい。</p>			
			<p>左：日本政策金融公庫による講演 右：JA周桑研修ほ場見学</p>	


標 題	愛媛マンダリンパイレーツ応援デーで四国中央市のブランド茶「結の霧ひめ」や産地をPR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年6月25日	場所	新居浜市営野球場	
指導対象	うま茶振興協議会（1人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○愛媛マンダリンパイレーツ公式戦「東予地方局応援デー」に合わせて、四国中央市のブランド茶「結の霧ひめ」及び茶産地のPRイベント開催を支援した。</p> <p>○当日、「結の霧ひめ」冷茶の試飲や同市産のお茶（うま茶）が当たるカプセルトイ（ガ茶ガ茶）の設置、茶産地の動画放映、PRパンフレットの配布などを実施し、多くの来場者で賑わった。</p>			
結果と今後	<p>○試飲に関しては、子ども連れの親子や高齢の観客が多く「煎茶」よりも「ほうじ茶」が好評であり、「急須がないのでお茶はペットボトルで間に合う」との声も聞かれた。また、カプセルトイは、特に小学生や大人の男性が興味を示し、ある種の射幸心も相まって、恰好のPR用素材として活用できる手ごたえを感じた。</p> <p>○このようなイベントは産地や商品のPRだけでなく、消費者と直に触れ合い、嗜好や意見を収集できる機会であるため、今後も関係機関と連携しながら、うま茶の認知度向上と消費拡大に向けた活動を企画、支援する。</p>			
			<p>左：イベントブース 右：カプセルトイ「ガ茶ガ茶」でうま茶をPR</p>	



標 題	石鎚黒茶生産3団体が、GIの申請について協議を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月14日	場所	東予地方局西条第2庁舎4階会議室	
指導対象	石鎚黒茶生産3団体	連携機関	西条市	
普及指導内容	○石鎚黒茶を生産する3団体が、GI（地理的表示保護制度）の申請を検討していることから、「GIサポートデスク中国四国」のアドバイザーを講師に招き、GIの申請について研修を行った。			
結果と今後	○GIの制度と運用の実際について、アドバイザーから詳細な説明を受けた後、参加者からは、生産工程の確認方法や生産者団体に加入しない生産者の扱いをどうするか等、積極的な質疑が行われた。 ○各団体は、研修で学んだことを持ち帰り、今後、GI取得に向けて取り組んで行くか検討し、結論を出すこととした。			
				<p>左：GI制度の研修 右：講師との活発な質疑応答</p>




標 題	鳥獣被害防止に向けたスマートフェンスを設置		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年6月5日	場所	今治市玉川町	
指導対象	新規就農者（1戸）	連携機関		
普及指導内容	○イノシシの侵入防止を図るため、掘返し被害のあったレモンの苗木園地でスマートフェンス設置指導を行った。 ○ワイヤーを適切な高さにすること（イノシシの防除目的であれば下段20cm程度）や、アースを水気のある場所に埋設するなど、侵入防止効果を最大限発揮させる設置方法について指導した。			
結果と今後	○設置時間は約20aのほ場で1時間程度（作業人数3人）要した。 ○今後、センサーカメラによる侵入経路やスマートフェンスによる追払い効果の確認を行い、設置効果について検証する。			
<p>【スマートフェンス】 ポールとワイヤー、リールが一体となった電気柵用フェンス。ポールを引っ張ることで一度に4段のワイヤーが展開、ハンドルを回すことで一度に回収が可能であり、作業時間を従来の1/4以下に短縮可能。</p>				<p>設置した スマートフェンス</p>

標 題	新規就農者の定着に向け関係機関が連携		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年6月6日、16日、27日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部ほか	
指導対象	新規就農者及び研修生 (7人)	連携機関	JA おちいまばり、今治市、今治市農業委員会	
普及指導内容	<p>○新規就農者の確保・育成等を支援するため、担い手アグリサポート連携会を開催し、就農に向けた農地確保等の準備状況や、導入機械・施設の整備内容について協議した。</p> <p>○新規就農者のうち、技術・経営管理など濃密指導が必要な就農初期の4人と今年度就農する3人を重点指導対象者に選定し、早期の経営確立に向け指導していくことを申し合わせた。</p> <p>○また、9月に就農する研修生に対しては、篤農家から就農予定地の栽培品目や栽培技術、施設導入へのアドバイスを実施し、就農に向けた注意事項を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○今治市では令和8年度までに15人が就農予定であり、技術習得や経営開始に向けた経営環境の整備について支援を行うこととなった。</p> <p>○新規就農者については、地域の農家と連携したサポート体制に基づき、個々の状況に応じた経営改善指導を行い、安心して農業に取り組めるよう支援する。</p>			
				<p>就農予定地で施設導入等について指導</p>



標 題	梅雨時期のさといも管理作業の確認		機関名	今治支局地域農業育成室	
年月日	令和5年6月2日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部		
指導対象	JA おちいまばり里芋部会員 (42人)	連携機関	JA おちいまばり 県農林水産研究所		
普及指導内容	<p>○6～7月の栽培管理のポイント等について、基本技術の徹底を図るための講習会を開催した。</p> <p>○昨年度に制作した映像「サトイモの主な作業のご紹介」を活用し、重要な作業である除草、土入れ、病害虫防除、かん水、排水対策等について指導した。</p> <p>○また、産地拡大に向け優良種芋を容易に増殖できるセル苗増殖技術について紹介し、計画的な種芋更新を指導した。</p>				
結果と今後	<p>○講習会には新規生産者8人も参加しており、疫病の防除対策について質問するなど、梅雨時期の基本技術の実施に向け、栽培意欲の高まりがうかがえた。</p> <p>○引き続きJA出資法人等による優良種芋の安定的な供給体制の確立を目指すとともに、講習会による基本技術の徹底を図る。</p>				
					<p>左：栽培管理ポイントを映像で確認 右：セル苗増殖技術を説明</p>


標 題	鳥獣害対策モデル集落で活動方針を検討		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年6月26日	場所	今治市乃万 神宮集会所	
指導対象	神宮集落リーダー（5人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○野生鳥獣による農作物被害が高止まり傾向にある今治市において、鳥獣害対策を地域で効率的・効果的に進めるためのモデル集落を選定し、検討会を開催した。</p> <p>○令和5年度のモデル集落は、水稻・かんきつ被害が顕著で、集落内で猟友会メンバーが捕獲に取り組んでいる「神宮集落」を選定している。</p> <p>○検討会では、農作物の被害状況や対策実施状況などの聞き取りを行った。</p>			
結果と今後	<p>○防護対策として、かんきつ園にはワイヤーメッシュ柵を設置しているが①管理が不十分で被害が抑えられていないこと、②集落内の被害状況が把握できていないこと、③農家の対策への意向が分からないなどの問題点があげられた。</p> <p>○今後、被害状況を把握するため、集落リーダーや農家を対象に聞き取りやアンケート調査を実施し、被害対策について検討を進める。</p>			
				<p>地域リーダーと鳥獣被害などについて意見交換</p>



標 題	上島町かんきつ基礎講座を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年6月24日	場所	上島町岩城（しまなみ農業指導班岩城駐在）	
指導対象	兼業農家、就農検討者等（16人）	連携機関	上島町、JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○上島町在住の兼業農業者や就農を検討している地域住民等を対象にかんきつ栽培基礎講座を開催した。</p> <p>○町広報誌で受講者を募集したところ16人の申込みがあり、1回目の講座では、かんきつの生理生態や毎月の作業内容等について、スライド解説による座学と場内園地での講習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、普及指導員の説明に熱心に聞き入り、作業のポイント等について質問するなど、かんきつ栽培の基本技術習得に向けた学習意欲の高まりがうかがえた。</p> <p>○今回を含めて年間5回の講座を開催する予定で、参加者の栽培技術習得により、次代の担い手（定年就農者）の確保と農用地の利用率向上につなげる。</p>			
				<p>左：かんきつの生理生態を学習</p>
				<p>右：園地での講習</p>


標 題	女性経営参画支援講座を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年6月28日	場所	今治市上浦町、大三島町	
指導対象	一次産業女子（12人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○地域の特徴に即した農業に関する知識・技術習得と経営参画への意識啓発を行うため、女性経営参画支援講座（第1回）を開催した。</p> <p>○今回の講座では、農機具の安全な使用方法やメンテナンス方法等について講習を行った後、間伐で園内道を整備し作業効率が向上した園地の見学を行うとともに、参加者の園地に移動してチェーンソーを使用した間伐作業の実習を行った</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、普及指導員の説明に熱心に聞き入るとともに作業ポイントについて質問するなど、園地の作業環境改善に向けて意識が高まり、「園内を整備することで作業スペースが確保され作業効率が上がる実感ができた」「この方法なら自分でも作業できそう」などの意見があった。</p> <p>○今後も一次産業女子に対して講座を開催し、園地の巡回と実技指導を行うことで、管理技術の習得や経営管理能力の向上を図る。</p>			
				
農作業安全講習				間伐整備された園地を見学


標 題	甘長とうがらし単肥配合の現地実証を開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月12日、15日、23日	場所	今治市玉川町	
指導対象	甘長とうがらし生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○肥料価格高騰対策として12日に甘長とうがらしの単肥配合の現地実証を開始。10種類の単肥肥料を配合し、pHやECを現場で調整しながら配合した。</p> <p>○同園地は、「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用し17カ月連続栽培しているほ場で、今回、適切なかん水頻度や培地条件について検討するため、高設ベッドの根部の状態も合わせて調査した。</p>			
結果と今後	<p>○水源のpHが高いため硝酸を増やし適正範囲内に調整するなど、現場の状態に合わせて配合を修正。今後は、廃液の成分分析等を通してより正確な配合方法を目指すとともに、調整方法は今後作成するマニュアルに反映させる。</p> <p>○根部の調査では、ベッドの培地の密度が粗いため養液が端まで浸透していないことや、曇天時は蒸散量が少なく過湿状態となっていることが確認された。</p> <p>○今後、改植時に培地の状態を改善するなどして養液栽培技術の確立に取り組む。</p>			
				
17カ月連続栽培している圃場		10種の単肥を配合した養液の調整		



標 題	花木栽培における肥料コスト削減に向けた現地実証の開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月1日、2日、16日	場所	今治市玉川町	
指導対象	花木生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○肥料コスト削減が課題となっている中、ビバーナム・ティナスにおいて安価な鶏ふんの追肥効果を検証する現地試験を開始した。JA 担当者と生育状況等を確認した後、対照区である有機配合肥料施用区と、同等の窒素分量の鶏ふん（ペレット）施用区を設置し、経時的に土壌肥料分（EC 値）の変化を測定した。			
結果と今後	○防草シートの上に施肥した有機配合肥料は、雨量約 40 mm でペレットの形状がなくなるのに対し、鶏ふんペレットは、100 mm の雨量でも形状を維持しており EC 値の上昇も緩やかであった。今後は、定期的に EC 値や生育状況等を確認することにより、鶏ふん肥料の施用量や施用間隔を決定する。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>JA 担当者との試験区設定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土壌中 EC 値の測定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>降雨 40 mm 後の鶏ふん区の状況</p> </div> </div>				


標 題	自動給水機で水田の水管理を省力化		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月8日	場所	東温市松瀬川	
指導対象	水稲技術実証農家（1人）	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	○水田における水管理の省力化を図るスマート農業技術の現地実証として、水田自動給水機一式（水門開閉機、水位測定機と前述2機器をスマートフォンのアプリで監視・制御を可能とするための基地局）を設置した。 ○農家が所有するスマートフォンに本機を遠隔制御するアプリをインストールし、操作方法を説明した。			
結果と今後	○今後、本機の作動状況や水管理の省力程度、高品質・安定生産への有用性について、実証農家への聞き取り等により、評価する。 ○水稲作におけるスマート農業技術の一つとして、実用性を検討するとともに課題等を抽出しながら普及につなげる。			
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-left: 10px;"> <p>【水田給水機】 自動または任意で開閉可能な水門ゲートと水位測定器をセットで水田に設置し、アプリで水位低下を検知して水門開閉の遠隔操作を行う。</p> <p>左：農家に基地局の概要を説明 右：水門ゲートを設置</p> </div> </div>				

標 題	なす天敵利用による産地拡大		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月2日	場所	伊予市市場他	
指導対象	なす天敵利用技術検討会構成員(12人)	連携機関	松山市、伊予市、東温市、松前町、砥部町、JA(松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○天敵昆虫等を利用した防除技術の確立に向け、地方局予算「なす産地強化対策事業」に係る天敵利用技術検討会を開催した。</p> <p>○これまでの成果として、天敵導入により、品質を維持しつつ化学合成農薬の散布回数を削減した事例を紹介したほか、天敵導入農家が増加していることや、新たな取組として土着天敵のみを利用した技術実証の取組状況を報告した。</p> <p>○さらに、JA えひめ中央研修センターの栽培ハウスを視察し、天敵昆虫等の確認や天敵温存植物の植栽方法等について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者らは、天敵昆虫等を利用したメリット等を把握するとともに、天敵の種類や定着状況を確認し、天敵温存植物の必要性について理解を深めた。</p> <p>○今後、天敵利用技術マニュアルを作成するとともに、なすの販路拡大策として県大阪事務所と連携し、京阪神を中心にPR活動を展開する。</p>			
				<p>左：天敵関連資材を展示 右：天敵の定着状況を確認</p>



標 題	奥松瀬川地区の農村 RMO 形成を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月7日	場所	東温市奥松瀬川（ほっこり奥松）	
指導対象	奥松瀬川地区農村活性化協議会(3人)	連携機関	農地整備課、中予農村整備第一課、東温市	
普及指導内容	<p>○農山漁村振興交付金「農村型地域運営組織（農村 RMO）形成推進事業」の県内初の取組みとなる奥松瀬川地区で、地区役員らと農地の維持及び保全に向けた取組内容について協議した。</p> <p>○1年目の計画として、荒廃農地の解消と発生防止のため、遊休農地等でレンゲ・菜の花等を栽培し養蜂に利用することや、千日紅やニゲラ等の花き類をドライフラワーに加工し、リースを製作・販売するなど、6次産業化に向けた取組を行う。</p>			
結果と今後	<p>○検討の結果、養蜂に優しい農薬使用や、ドライフラワー用花き苗の栽培管理等について技術指導を実施することとなった。</p> <p>○今後、栽培技術面の課題について指導・助言を行い、農村 RMO を形成すべく農地の保全対策や6次産業化を推進し、地域農業の活性化を支援する。</p>			
		<p>【農村型地域運営組織（農村 RMO）】 RMO=Region Management Organization 複数の集落が機能を補完し合い、農業を核とした経済活動と併せ、生活支援等、地域のコミュニティ活動も展開し、農地の維持と保全に取り組む組織。</p>		
事業計画の内容を検討				

標 題	就農希望者の就農準備状況や新規就農者の現状等を確認		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月2日、9日	場所	JA えひめ中央新規就農研修センター 松山市役所	
指導対象	就農希望者(20人)、新規就農者(19人)	連携機関	JA えひめ中央、松山市、日本政策金融公庫 ほか	
普及指導内容	<p>○JA えひめ中央新規就農研修センターの研修生等を対象に、研修の習熟度や就農に向けた準備状況等を確認した。</p> <p>○本年4月の新規就農者に対しては、関係機関と共に面接を行い、将来の計画や現状での悩みなどを聴取したほか、栽培管理や経営知識の習得に加え、地主や周辺農家とのコミュニケーションも大切であることを助言した。</p>			
結果と今後	<p>○研修生は、関係機関と連携しながら土地の確保やほ場準備等を進めており、中には現在基盤整備が進む園地で就農を目指す者もいる。</p> <p>○新規就農者は、夢と営農意欲に満ちているものの、栽培や経営管理技術については未熟であることから、個別に重点指導を実施。</p> <p>○引き続き、個々の課題解決を図る一方、青年農業者等との交流会を実施するなど、関係機関と連携しながら新規就農者の定着に向けての支援を行う。</p>			
				新規就農者に対する面談指導


標 題	技術力向上を目指し農業女子活動を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月5日、16日	場所	松山市興居島及び中島	
指導対象	女性農業者(17人)	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○「ひめの国一次産業女子活躍推進事業」に取り組み、技術力向上や幅広い知識習得に向け活動を展開している中島と興居島の農業女子組織を対象に、かんきつの摘果講習等を実施した。</p> <p>○品種ごとの生育特性や摘果方法を説明した後、意見交換しながら実際に摘果に取り組んだ。</p>			
結果と今後	○地域で活躍できる女性農業者の育成を目指し、技術講習会や先進地事例研修等を支援する。			
				<p>左：品種ごとの摘果方法を学ぶ</p> <p>右：自主的な組織運営で活動</p>


標 題	「媛かぐや」の定植始まる		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年6月7日	場所	松前町南黒田・横田・北川原	
指導対象	「媛かぐや」栽培農家（7人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○さといも県育成品種「媛かぐや」の産地化に向け、地方局予算「媛かぐや産地育成事業」に係る実証ほでの定植が始まった。</p> <p>○地温上昇の抑制効果が見込める白黒マルチを使用し、2条千鳥植えの密植栽培で、地上部の芋が良食味になるよう浅植えとしたため、活着までかん水を徹底するよう指導した。</p>			
結果と今後	○本年は、7人の農家が計6aのほ場で栽培を開始しており、今後、梅雨明け以降のかん水を徹底するよう指導し、加工向けサイズ（1.0～1.5kg/個）の安定生産を目指す。			
		<p>左：「媛かぐや」の定植作業 右：「媛かぐや」の2条千鳥植え</p>		

標 題	新規就農者支援に係るトマトの生育調査と指導を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年6月13日	場所	久万高原町内	
指導対象	トマト新規就農者、研修生（10人）	連携機関	久万高原町営農支援センター	
普及指導内容	○新規トマト生産者等の技術力強化を図るため、就農1～2年目の生産者や久万農業公園研修生を対象に、9月まで2週間毎に生育や病害虫発生状況を調査し、栽培技術指導を実施することとした。			
結果と今後	<p>○調査結果に基づき、ほ場毎の適切な肥培管理や病害虫防除について指導し、新規トマト生産者等は適期作業の実施につなげることができた。</p> <p>○引き続き、新規就農者等のトマト栽培に関する知識や技術を生育段階に応じてタイムリーに指導し、技術力を高めることで就農後の定着を図る。</p>			
		<p>新規トマト生産者ほ場で適切な管理指導を実施</p>		



標 題	パクチー新規生産者が夏採り栽培を開始		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月7日～22日	場所	松山市小野、東温市則之内・河之内	
指導対象	パクチー生産者(3人)	連携機関	JA えひめ中央、松山市、東温市	
普及指導内容	○松山市及び東温市のパクチー新規生産者ほ場で、夏採り栽培のポイント①均一な畝面を作る②マルチをたるみなく張る③排水対策をしっかり行う④播種後は発芽まで乾かさないうにかん水を行う等について指導した。			
結果と今後	○生産者はマルチ面に開けられた植穴の土をならし、一穴あたり3粒の種子を丁寧に播種した。 ○播種後10日に発芽状況を確認し、的確な除草と防除作業を行い、45～50日後に草丈40cm程度で収穫する計画としている。 ○各生産者の土壌条件や標高等異なる栽培条件の中、出荷量が少なく高単価が期待できる初夏播き夏採り栽培に挑戦し、播種～収穫の一連の技術を身につけさせるとともに、各栽培条件に適応した技術確立を進める。			
				<p>左：夏採り栽培の播種作業 右：発芽状況</p>



標 題	いちごの育苗管理研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月6日	場所	鬼北町近永	
指導対象	管内いちご生産者(15人)	連携機関	県病虫害防除所	
普及指導内容	○宇和島市、北宇和郡のいちご生産者で構成する「宇和島地区いちご研究連絡協議会」を対象に研修会を開催し、育苗管理を指導した。 ○現地研修では、現在、生産者の多くが金網棚を用いた小型ポット育苗や底面給水育苗を行っている中、育苗管理の省力化を図るために昨年「カタツムリポット」を導入した生産者のほ場を視察した。 ○また、室内研修では、「炭そ病」や「ハダニ類」等の防除対策について、病虫害防除所から説明を行った。			
結果と今後	○「カタツムリポット」はコスト高になるものの、かん水ムラがなくなり、作業の省力化につながるとして、多くの生産者が興味を示し、新たに1戸が導入することとなった。 ○参加者からは、「実際に育苗ほ場を見て生産者同士で意見交換ができてよかった」「病虫害対策についても専門的な話が聞けて勉強になった」等の感想が聞かれた。			
				<p>左：病虫害防除対策の講義 右：「カタツムリポット」 点滴かん水用の育苗ポット。ポット内部のラインに沿って均等に水が流れるため、かん水ムラが少ない。頭上かん水に比べ炭そ病の拡大抑制も期待できる。</p>

標 題	高級和菓子用柿の摘果方法を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年6月27日～28日	場所	宇和島市(柿原、三間)	
指導対象	加工用柿生産者(26人)	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○高級菓子の原料用として通常よりも小玉に仕上げるため、枝の強弱により着果個数を調整するなど、出荷基準に合わせた摘果のポイントを指導した。</p> <p>○また、梅雨時期に発生が懸念される病害虫対策として、病害の見られる果実や枝などを速やかに園地外に搬出することなどを併せて指導した。</p> <p>○加工用柿の需要の高まりを受け、菓子メーカーも園地を借り入れ、栽培を始めたことから、この取組みが円滑に進むよう、関係機関とともに支援を行っている。</p>			
結果と今後	○柿の栽培については、着果性が良いこと等から生産者の意欲も向上しており、引き続き、安定供給に向けた生産指導と新規栽培者の掘り起こしを進める。			
		<p>左：菓子メーカーへの栽培管理指導</p> <p>右：柿の肥大状況</p>		



標 題	ゆずの有機農業研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年5月31日～6月12日	場所	鬼北農業指導班 技術実証園地	
指導対象	ゆず栽培農家(20人)	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○有機JASに準じた栽培を行っている鬼北地域のゆず生産者を対象に、有機農業研修会を開催し、化学農薬に頼らない病害虫防除を指導した。</p> <p>○難防除害虫「ゴマダラカミキリ」に有効なボーベリア菌を用いた薬剤の効果的な設置方法等について実習を行った。</p> <p>○また、最近の肥料価格高騰を受け、新たに豚ふん堆肥の効果的な施用方法に関する実証ほを当実証園に設置し、6月から調査を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は、今回実習した技術を自身のほ場で実践して効果を確認することとなり、管内での普及に弾みがつくことを期待している。</p> <p>○当班では引き続き、関係機関と連携し有機農業の推進を支援するとともに、活用されていない豚ふんの果樹への利用についても検討する。</p>			
		<p>左：室内研修会</p> <p>右：薬剤の設置方法を熱心に学ぶ生産者</p>		



標 題	松野町産キウイ花粉の本格出荷に向けて調査を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年6月20日、30日	場所	宇和島市、大洲市、内子町、伊予市、砥部町および西条市	
指導対象	キウイフルーツ生産農家（12戸）	連携機関	果樹研究センター、松野町（株）松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○令和4年産の松野町産花粉を用いた授粉の実証は12園地（JA愛媛たいき・えひめ南・東予園芸、えひめ中央管内）を巡回し、着果状況や果実肥大を調査した。</p> <p>○各園地とも着果状況や果実の大きさについて輸入花粉との差は見られず、順調な生育が確認できた。</p>			
結果と今後	○今後は、実証ほ場で生産された果実の収穫・品質調査等を行い、同町産花粉の初出荷に向けて最終的な確認を行う。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>着果状況を調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>松野町産花粉を授粉した果実</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>輸入花粉を授粉した果実</p> </div> </div>				




標 題	南宇和高校生が農家の園地で縮間伐を実践		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年6月27日	場所	愛南町御荘長洲	
指導対象	「河内晩柑」生産者	連携機関	県立南宇和高校	
普及指導内容	<p>○「河内晩柑」の作業性改善に向け、縮間伐による密植解消を指導する一環で、南宇和高校生を対象とした講義や実習において、その有効性を取り上げている。</p> <p>○今回、生産現場での実習を考えていた同校と、縮間伐を予定していた農家をマッチングし、農家の園地で同校生による縮間伐実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○作業後、農家からは「園内をスムーズに通れて、防除や施肥が楽になる」、同校生からは「学校の実習園よりも樹の間隔が広くて、作業しやすいと思う」との感想が聞かれた。</p> <p>○今回のマッチングを機に、今後、同高生が園地状況をドローンで撮影し、縮間伐計画を作成して、農家と連携しながら作業性の改善に取り組むことになった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: left; margin-left: 20px;"> <p>左：農家が園地の状況を説明</p> <p>右：縮間伐の実践</p> </div> </div>				



標 題	青年農業者を対象に「やさいバス」の研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年6月21日	場所	愛南町城辺	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会(15人)	連携機関	やさいバス株式会社	
普及指導内容	<p>○青年農業者の販路拡大支援を目的に、当地域の地理的ハンディキャップをカバーし、新たな流通チャンネルの一つとして期待される受発注システム「やさいバス」の研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、やさいバス株式会社の滝沢氏から、事業立ち上げの経緯や現在の契約店舗や取扱状況、取引開始時の注意点等の説明があった。</p> <p>○なお、本サービスについては4月に開催された「愛媛県若い農業経営者大会」の記念講演でも情報提供があり、当協議会の一部会員も利用している。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは「輸送の課題が解決でき、少量品目でも出荷可能なので非常に魅力を感じた」との声が聞かれ、仕組みや利用方法等について多くの質問が出された。</p> <p>○引き続き、同協議会活動を通じて会員の生産・販売対策等を支援する。</p>			
  <p>「やさいバス」研修会</p>		<p>【やさいバス】 やさいバス株式会社が提供する受発注システムで、ECサイト上で購買者から直接注文を受けた生産者が、最寄りの集配拠点(バス停)に商品を持ち込むと、配送業者が購買者のいるバス停まで配送するシステム</p>		



標 題	スイーツで三間町産野菜をPR		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月22日	場所	宇和島市三間町	
指導対象		連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○地域農産物の販売拠点である道の駅を核に、生産・出荷・販売(誘客)の好循環サイクルを目指す当室は、同駅の20周年イベントに合わせて三間町産野菜にこだわった特別商材づくりを提案している。</p> <p>○野菜詰め合わせセットや併設レストランでの限定メニュー、野菜加工品などのうち、今回は野菜を使用したスイーツの商品開発について地元加工業者と協議・試作を行った。</p>			
結果と今後	<p>○試作の結果、スイートコーンとハウレンソウを使用したロールケーキや、シソやニンジンのパフェなど彩り豊かで特徴ある計5品が完成した。</p> <p>○これらのスイーツは7月のイベント販売を予定しており、レストランや生鮮野菜コーナーと連動して三間町産野菜のPRを行う。</p>			
		 <p>左：地元加工業者との協議 右：試作スイーツ (使用野菜：シソ、ニンジン、枝豆、しょうが等)</p>		

標 題	マイナーから抜け出せ！「つるむらさき」を県外市場等で PR		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月29日、30日	場所	大阪府、神戸市中央卸売市場	
指導対象	JA えひめ南 軟弱野菜部会（2人）	連携機関	県大阪事務所、JA えひめ南、神果神戸青果（株）	
普及指導内容	<p>○「つるむらさき」の認知度向上による需要拡大を目指し、生産者、JA と共に関西圏域でPR活動を実施した。</p> <p>○29日は大阪府内の「食の大使館」認定飲食店を訪問し、実需者目線で本品目への印象等について聞き取り調査を行い、翌30日には卸売市場で料理試食会を開催し、30人の参加者へナムルと天ぷらを紹介した。併せて市場の仲卸業者への営業活動を行った。</p>			
結果と今後	<p>○飲食店では「独特の香りやヌメリを活かしたレシピと手軽な調理方法をあわせて提案してはどうか」等の意見があった。</p> <p>○試食会参加者の多くは食べた経験がない中、9割が「美味しい」「自身で調理したい」と回答。市場関係者とは新規取引を見据えた具体的な協議を継続していく。</p> <p>○8月には中予のスーパーで販促活動に取り組む予定で、夏場の定番野菜を目指し、PR活動を強化する。</p>			
				<p>左：飲食、市場への営業 右：多くが参加した試食会</p>


標 題	かんきつ園におけるドローンを活用した防除の実証を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年6月1日～	場所	八幡浜市日土町	
指導対象	かんきつ生産者	連携機関	JAにしうわ、八幡浜市、伊方町、県果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○西宇和スマート農業推進協議会は、5月30日に通常総会を開き、今年度から新たにかんきつ園におけるドローンを活用した防除の実証に着手することを決議し、6月1日に八幡浜市日土町に実証ほを設置した。</p> <p>○これは、スプリンクラー施設が無いかんきつ園地における防除作業の省力化を図ろうと始めたもので、ドローンによる防除の有効性を検証する計画である。</p>			
結果と今後	<p>○果樹研究センターの試験成果によると、黒点病に対するマンゼブ水和剤やカイガラムシ類に対するスピロテトラマト水和剤などは、スプリンクラー防除と同等の効果が得られると報告されている。</p> <p>○一方、現場では高濃度による少量散布であるため防除効果に疑問を持つ意見が多いことから、本実証を通して懸念の払しょくと普及拡大を図っていく。</p> <p>○収穫期に、正品として出荷可能な果実の数量を調査することとしている。</p>			
				<p>左：通常総会（JAにしうわ本所） 右：ドローン防除</p>


標 題	イノシシの突破を防ぐ防護柵設置のコツを周知		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年6月15日～	場所	八幡浜市・伊方町	
指導対象	管内生産者、JA 指導員（16人）	連携機関	伊方町地域おこし協力隊	
普及指導内容	<p>○管内のイノシシによるかんきつ被害が高止まり傾向の中、当室はイノシシからは場を守る防護柵の設置方法について要点をまとめた資料を作成した。</p> <p>○当資料は、伊方町地域おこし協力隊と協力して作成した柵の設置方法に関わる動画（県公式 YouTube にて公開）の要点をまとめたもので、動画の QR コードも記載している。</p> <p>○より多くの生産者に周知するため、当室が生産者に説明するだけでなく、JA 営農指導員など関係機関からも積極的に生産者に配布・説明するよう申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「動画があるため、分かりやすい」「今まで何気なく行っていた事に、注意が必要であることが分かった」等の声があり、鳥獣害対策への理解を深め、意識を高めることができた。</p> <p>○引き続き、生産者が資料内容を自身のほ場で実践できるように、現場での指導に取り組んでいく。</p>			
				
	作成した防護柵設置の資料	生産者に資料を説明	鳥獣害対策（YouTube）の QR コード	

標 題	夏秋きゅうり新規栽培者講習会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年6月9日、14日	場所	Pi-Nokyo たいき研修ほ場（大洲市）	
指導対象	きゅうり新規生産者（5人）	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○初期投資が少なく新たに取り組みやすい品目として、市内の定年退職者を中心にきゅうり栽培を推進しており、今回、新規生産者を対象に重要な管理作業のタイミングに合わせて講習会を実施した。</p> <p>○定植、摘芯、収穫の適切な時期や、農薬の基本的な使い方、梅雨時期に注意すべき病害虫とその防除方法等を指導した。また、JA 営農指導員から摘芯や葉かぎの実演指導、出荷方法の説明があった。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、自身のは場管理に活かそうと、親づるを摘芯する高さや、薬剤散布の間隔等を熱心に質問するなど、技術習得に意欲的だった。</p> <p>○定期的な講習会と個別巡回指導等により、新規生産者の早期技術習得を図るとともに、農地を所有する定年退職者をターゲットに新規生産者の確保活動を継続し、産地の維持につなげる。</p>			
				
			<p>左：病害虫等について説明</p> <p>右：営農指導員による摘芯の実演</p>	

標 題	柿「刀根早生」の着色促進技術の普及		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年6月12日～	場所	柿園地（内子町）	
指導対象	「刀根早生」生産者（32人）	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○地球温暖化等の影響による着色遅れが出荷時期の集中を招き、販売単価下落の要因となっていることから、早期出荷による所得向上を目的に、環状剥皮等の着色促進技術を普及している。</p> <p>○開花後30日頃から2、3年生の強めの側枝に対して環状剥皮を施すとともに、枝折防止のため支柱で固定すること、処理枝では果実肥大が旺盛になるため、適切な着果量に調節することなどを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○農家は「刀根早生で儲けるには着色促進による早期出荷が重要。環状剥皮を行い所得向上を目指したい」と意欲をみせた。</p> <p>○産地全体の早期出荷率の底上げを目指して、これまで環状剥皮に取り組んだことのない農家を中心に推進していく。</p> <p>○7月下旬には、新たな対策として着色促進剤の散布実証を予定している。</p>			
<p>【環状剥皮】 果樹の枝や幹の樹皮部分を幅数cm程度環状に剥ぎ取ることで果実品質の向上等を図る技術。環状剥皮によって篩管がなくなり導管が残るため、根からの養水分の移行に支障はないが、葉で作られる光合成産物が果実を中心に留まるため、着色や肥大が促進される。</p>				
				
			環状剥皮に取り組む農家	処理後の状態

標 題	青年農業者が「長浜未来協議会」設立へ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年6月16日、27日	場所	JA 愛媛たいき長浜選果場、 会員かんきつ園地（大洲市）	
指導対象	大洲市長浜町青年農業者等（12人）	連携機関	JA 愛媛たいき、大洲市	
普及指導内容	<p>○これまで、地元農業指導士の呼びかけにより、青年農業者を中心に長浜地域の農業振興について協議していたが、この度、当班が中心となり組織化を推進した結果、「長浜未来協議会」として、活動を開始することとなった。</p> <p>○当班は、会員間の労働補完体制の構築を目指しており、活動の第一弾として、会員のかんきつ園地にて、間伐作業を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○当協議会は、農業関係にとどまらず、長浜地域の未来を考える会として様々な活動を行う方針で、会員からは、農繁期の労働力補完体制づくりや栽培技術向上のほか、イベント開催や SNS での情報発信等による長浜地域の活性化にも取り組みたいとの意見が挙がった。</p> <p>○当班は、組織運営の円滑化のため、規約作成や予算活動計画を指導するとともに、地元高等学校や民間事業者との連携など多様な活動の企画立案を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：組織名称・役員等について協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：かんきつ園の間伐作業</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者と農業高校生との交流会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年6月29日	場所	青年農業者園地（内子町）	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者連絡協議会 会員（2人）	連携 機関	県立大洲農業高校	
普及指導 内容	<p>○当班が活動の企画立案を支援する当協議会は、農業高校生が管内農業の実態や魅力を実地体験を通して知ること、将来の職業の選択肢として意識付けすることを目的に交流会を開催し、2年生4人が参加した。</p> <p>○当班が就農支援制度等を紹介したほか、青年農業者は就農までの経緯を説明した後、キウイフルーツの摘果体験及びアーモンドのほ場見学を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○対応した青年農業者は、農業高校生からの熱心な質問や真剣な態度に、将来の仲間が生まれるよう、期待を寄せていた。</p> <p>○交流会は、12月と3月にも予定しており、当班では、さらに農業の魅力を伝え、農業への関心や就農意欲を高められるよう内容の充実を図っていく。</p>			
		<p>左：摘果作業の説明に聞き入る高校生 右：アーモンドの実に興味津々</p>		

標 題	高収益作物（ケール）の生産性向上に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年6月6日	場所	西予市野村町野村	
指導対象	株式会社グリーンヒル、生産農家	連携 機関	県農林水産研究所、JAひがしうわ	
普及指導 内容	<p>○野村地域の高収益作物に位置付けられるケールについて、野村に合った栽培技術を確認するため条件等の異なる3ほ場を選定し、生育調査を実施した。</p> <p>○同調査では、農林水産研究所と連携し栄養診断を行うとともに、診断結果等を基に生産出荷対策協議会で、施肥時期・量の検討や栽培管理方法を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○今後も定期的に栄養診断結果を分析し、ケール栽培マニュアルにほ場条件ごとの施肥時期・量を反映させる。</p> <p>○太田・権現地区の基盤整備は令和6年頃に完成予定であり、整備ほ場でのケールの生産性向上に向け、同マニュアルに基づく栽培技術の確立を支援する。</p>			
		<p>左：ケールの栄養診断分析 右：生産出荷対策会議</p>		

標 題	西予市産ネギ等の学校給食への供給の開始		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月15日～	場所	せいよ東学校給食センター	
指導対象	(株)百姓百品村(農業法人) 百姓百品(株)(農産物直売所)	連携 機関	西予市	
普及指導 内容	○青ネギ農家の所得向上に向け、地産地消を推進している市内の学校給食センターに小中学校等での利用を働きかけ、マッチングの場を設けた。 ○マッチングでは利用側・供給側それぞれの要望等について意見交換を行った。			
結果と今後	○西予市は、幅広い品目で地産地消を推進していることから、(株)百姓百品村が生産する青ネギに加え、地域の農家の農産物を販売している農産物直売所「百姓百品」の複数商品も提供し、契約(R5.7.1～R6.3.31)を締結することとなった。 ○7月3日(月)に初納品され、7月4日(火)から学校給食に提供される。			



栄養士の先生を交えた意見交換

【契約の概要】
 対 象 校：幼稚園1校、小学校2校、
 中学校2校
 供給開始：R5.7.4(火)の給食から
 (納品は前日)
 供給食材：ネギ(周年)、季節野菜(随時)
 供給数：約600食分/日
 供給頻度：週4日程度



標 題	高周波音による鳥害軽減対策の検討		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年6月21日	場所	八幡浜市川上地区	
指導対象		連携 機関	岡山理科大学	
普及指導 内容	○かんきつ産地の鳥害軽減に向け、本県初の試みとなる高周波音を利用した鳥類の飛来抑制機器を活用した実証について、岡山理科大学辻教授の技術指導を受け、八幡浜市川上地区で取り組むこととした。 ○八幡浜市は今年度、川上地区をモデル地区として、生産者、猟友会等が連携し捕獲の強化等に取り組んでいる。 ○飛来抑制機器から発生される高周波音は、半径約200～300mの範囲に効果があるとされており、スピーカーの方向や角度を工夫することで、広範囲の園地をカバーすることができるかとされている。			
結果と今後	○発生する高周波音は不快に感じる場合もあり、園地での作業中は電源を切る必要がある。 ○設置後、飛来してきた鳥が旋回して遠ざかっていく様子が見られたことから、被害抑制効果が期待される。 ○温州みかんの収穫期までに、高周波音の最適な照射角度や効果測定方法等を検討する。			

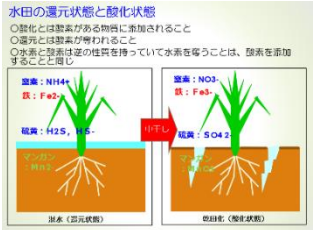






岡山理科大学(辻教授)の指導を受けた実証




スピーカー
 本体 BOX
 ソーラーパネル
 (上から)

標 題	女性農業者等が働きやすく暮らしやすい地域づくりに向けてリーダー研修会を開催		機関名	農産園芸課 企画調整グループ
年月日	令和5年6月6日	場所	愛媛県男女共同参画センター	
指導対象	農山漁村女性リーダー (34人) (生活研究協議会員、一次産業女子ほか)	連携機関	各地方局支局地域農業育成室 市町、県農業会議	
普及指導内容	<p>○農山漁村の女性が活躍できる環境づくりと意識改革を推進することを目的に、研修会を開催した。</p> <p>○輝り果樹園 金光史氏（西条市）に、「地域と家族と共に成長してきた私たちの農業」と題して、農業と子育ての経験や地域資源の活用の取組みを講演いただいた。</p> <p>○県内の各地域における活動の周知及び参加者間の交流を深めるため、地域間を越えたグループ構成での意見交換を行い、女性リーダーとしての資質向上を図った。</p>			
結果と今後	<p>○意見交換では、本研修テーマの実現に向け、「仲間作り」「知識・技術を教え合う」「発想の転換」が必要といった例が挙がり、自分事として捉えるきっかけとなった。</p> <p>○参加者からは、「意見が沢山出て、考えが広がった」「普段出会えない地域や活動をしている方との交流が出来て良かった」といった前向きな意見がうかがえた。</p> <p>○今回挙げた意見等を参考に、県内農山漁村の女性リーダーが交流し、互いに連携や交流ができるよう、交流会の開催や環境づくりの支援に取り組む。</p>			
				
	日頃の活動を説明する金光氏（右奥）		講演や活動から意見交換をする参加者	

標 題	「ひめの凜」の中干講習会の開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年6月21日～6月30日	場所	県内11か所（延べ14回）	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者ほか (304人)	連携機関	JA（周桑、未来、東宇和、えひめ南、越智今治、今治立花、全農）	
普及指導内容	<p>○田植え30日後の中干し開始や中干し期間（10日間）の重要性等について、栽培管理ポイントを資料に基づき解説し、気温の上昇に伴い分けつが進む場合、早目に中干しに入るなどを指導した。</p> <p>○また、「いもち病」や「トビイロウンカ」の早期発見と適期防除の必要性を指導した。</p> <p>○現地ほ場において実際に茎数を確認し、適期中干しのタイミングを認定栽培者に周知した。</p>			
結果と今後	<p>○講習会に用いた中干し資料は県ホームページで公開し、認定栽培者等への周知を図ることとしている。</p> <p>○7月には穂肥講習会を予定し、令和5年産の「ひめの凜」の高品質・良食味米生産につなげる。</p>			
				
	中干し（還元→酸化）	室内研修	現地での栽培講習	

標 題	さといもの生育状況写真をデータベース化		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年6月21日	場所	松前町さといもほ場	
指導対象		連携機関	伊予農業指導班、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○リアルタイム農業普及指導ネットワークへのデータ集積を目的に、さといもの栽培ステージに応じた生育状況を可視化するための写真撮影の目合わせを行った。</p> <p>○写真は2週間に1度撮影することとし、前回の撮影位置と同じになるよう支柱を設置した。</p>			
結果と今後	<p>○県下8地区で定点を設置し、データベース化する。</p> <p>○今後は、データベース化した写真の中から優良事例を参考にし、的確な技術指導に役立てる。</p>			
 <p>撮影位置を確認</p>		 <p>撮影した写真</p>		

標 題	野菜生産における環境に優しい「天敵導入技術」について学ぶ		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年6月9日	場所	花き研究指導室	
指導対象	JA 営農指導員、普及指導員等 (43人)	連携機関	JA 全農えひめ、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○化学農薬の使用量低減に向けた指導員の技術力向上を図るため、野菜調査研究会を開催し、天敵導入技術や管理上の要点・今後の課題等について協議した。</p> <p>○県内各産地の天敵導入状況について情報共有するとともに、土着天敵の利用方法や注意点について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○選択制農薬の使用により、土着天敵が定着し、農薬の散布回数が減少することを申し合わせた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、野菜類における天敵導入について支援を行うとともに、天敵導入技術の普及に取り組む。</p>			
 <p>天敵導入技術を学ぶ</p>		<p>【土着天敵】 ほ場やその周辺などの自然界に元来生息している土着の昆虫やその他生物で、農業害虫の天敵となるもの。</p>		

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543